

◆ かつば民話シリーズ⑦ ◆

# 相模の河童まつり 宴たけなわ

さがみのかつばまつりえんたけなわ



作:近藤せいけん



相模の国に大河相模川が流れています。相模川、中津川、小鮎川の三つの川が合流する地点に、相模のかっぱ村が「三流」があります。人間界には見えない、まぼろしのかっぱ村です。春はさくらの咲く頃、各地から河童族がかっぱ船に乗って、相模川にぞくぞくと集まってきました。

兩岸は見事なさくらの競演であった、そこが相模の太郎河童の住むところ「さんりゅう」である。

「さあ～おりられよ！方がた。この地が、わしの住む、かっぱ名で三流じゃ」

「わあ～何と美しい国じゃこと！」

「悠々たる霊峰大山、そして清い流れの三流、それにつづくかっぱの大地、良きかな、良きかなあ！」

太郎河童「ここから見えるのが、かっぱ田。おいしいお米が沢山とれまする。」

「そして、かっぱ畑。ダイコンをはじめ、いろんな野菜がとれまする」

「そして、三つの川、鮎をはじめ、沢山の魚がとれまする」

大きな中州に、たくさんの席がもうけられており、各席にはダイコン漬、胡瓜漬、ナス漬をはじめ、沢山の漬物が積み上げられており、さらに鮎をはじめ、沢山の魚がとれるところせましくおかれている。

また沢山のお酒が入った樽が置かれていた。

「お酒は地酒のかっぱ酒！」

「米から作った（米酒）、ぶどうから作った（ぶどう酒）、なしから作った（なし酒）、いもから作った（いも酒）、みかんから作った（みかん酒）」

「さあ～さあ～かっぱ酒。さかずきになみなみ満たして、杯をあげましょう！」

「ご一同！ご唱和をおねがいつかまつる！」

「かん、かっぱ！ かん、かっぱ！」

「おう～お～お～お！」

いよ、いよ、太郎河童の待ちに待った瞬間である。

おおぜいのかっぱが一同に集まり、楽しく語らい、飲み、歌い、踊り、河童族の繁栄を謳歌する、かっぱ祭りである。太郎河童はこの「さんりゅう」でできる事を感激し、心から「大山の天狗様」に感謝した。

「さて、さて、ご一同、相模のかっぱ田でとれた、おいしいモチゴメでもちつきをいただきます。お手伝いください～」

「よう～し～おれがつく」

「おれも、やるぞ！」 「わたしも手伝うわ～」

多くのかっぱ衆がうすのまわりに集まる。

蒸したモチゴメがうすの中に入れられ、力自慢が杵でつく。

「えい！ペタンコ、えい！ペタンコ、えい！ペタンコ」

掛け声がかかり、気合がはいる。つぎつぎと餅はできあがり、女衆がもちを、ちぎり、丸める。

相模のかっぱ餅のできあがり。畑の大豆から作った醤油をからめた「醤油もち」「ダイコンもち」「なっとうもち」「きなこもち」「あんころもち」

いろんな「もち」のできあがり。

おいしい「もち」もふるまわれて、相模の国のかっぱ村「さんりゅう」のかっぱまつりさくらの宴も、宴たけなわであります。

(終わり)